【一】次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（1～13は段落番号を示す）

問題文については、著作権の関係で掲載いたしません。

問一、文中の傍線――①～⑤について、カタカナを漢字に、漢字を平がなに改めよ。

問二、文中の［　　A　　］に入る適切な文章を書け。

問三、文中の［Ⅰ］～［Ⅲ］に入る最もふさわしい語句を次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

ア　つまり　　イ　たとえば　　ウ　しかし　　エ　また　　オ　いったい

問四、文中の傍線――1が指す内容を説明せよ。

問五、文中の傍線――2について、実生活の中で想定される事例を考えて書け。※実際に体験したものでも構わない。

問六、文中の傍線――3について、なぜ私たちは騙されてしまう可能性があるか説明せよ。

問七、次のア～オの中で本文の内容として最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えよ。

ア　仕事で取引先に依頼するときには、最後まできちんと読んでもらうために一番重要なことは最後に伝える。

イ　日本語の文はその語順の特性により結論が必ず最後に来てしまうため、スムーズに話す必要がある。

ウ　副詞でも文の内容を予告することが可能であるが、助詞を使って文の内容を予告することはできない。

エ　私たちは他人の話を理解する際に言葉の影響を大きく受けるが、話の流れの影響を受けることはない。

オ　相手が理解しやすい文脈を作ることができれば、あいまいな表現でも理解してもらうことができる。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えよ。（1〜18は段落番号を示す）

問題文については、著作権の関係で掲載しません。

問一、文中の傍線――①〜⑤について、カタカナを漢字に、漢字を平がなに改めよ。

問二、文中のⅠ〜Ⅲに入る最もふさわしい語句を次のア〜オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

ア　だから　　イ　たとえば　　ウ　また　　エ　しかし　　オ　つまり

問三、文中の傍線――1と同じ内容を指す言葉を文中より九字で抜き出せ。

問四、文中の傍線――2について、文中で「知識」とはどのようなものであると考えられているか。「ノイズ」という言葉を必ず使用して説明せよ。

問五、文中の傍線――3の理由となる日本企業の前提を四字で抜き出せ。

問六、次のア〜オについて、本文の内容として正しいものには「○」、正しくないものには「×」を書け。（ただし、すべて同一の記号にて解答した場合は採点の対象外とする。）

ア　明治時代では青年たちが立身出世するために読書が欠かせなかった。

イ　戦後の日本において読書は一部のエリートのものから大衆の娯楽となった。

ウ　高度経済成長期を終えた日本では日本人のテレビの購入ピークを迎えた。

エ　現代の日本において成功のために必要なことは自分の行動を変革することである。

オ　バブル崩壊後の日本では「知識」を得るために自己啓発書が読まれるようになった。

問七、 次の表は本文の内容を整理したものである。空欄A～Cに入る言葉を文中よりそれぞれ漢字二字で抜き出せ。

	国の状況に関するトピック	労働に関するトピック	自己啓発の欲望	自己啓発の手段
明治～大正	近代化	職業の自由化	立身出世したい	A
戦前～戦後	高度経済成長	新中産階級の誕生	エリート階層に追いつきたい	B
オイルショック～バブル期	ジャパン・アズ・ナンバーワン	日本企業的働き方の定着	会社で出世したい	会社研修
バブル崩壊後～現代	民営化、グローバル化	仕事＝自己実現	仕事で自己実現したい	C